

浮世絵に描かれた江戸・東京の水辺空間の空間構成要素について

日大生産工(学部) 田尾 若菜 日大生産工(院) 山田 悟史
 日大生産工(院) 菊地 秀和 日大生産工 大内 宏友

1. はじめに

浮世絵に描かれたように、かつての江戸・東京における河川をはじめとする水辺空間は江戸城下町形成期より舟運機能を果たすとともに人々の生活用、防水用、親水用など多面的に利用され、江戸のまち特有の水にまつわる多様な文化を育み名所と称される美しい景観を生み人々に愛され親しまれてきた。しかし戦後我が国では利便性や治水上の施策が強調され、その結果都心における水辺空間は、高速道路やコンクリートの支柱群ビル群などにより遮られ、かつて人々が日常的に体験していた水辺空間における豊かさは失われた。また近年では、都市におけるヒートアイランド現象や砂漠化は深刻な問題として取りざたされている。一方では、人々が余暇や日常の潤いを都心における水辺空間に求めるようになった。浮世絵に描かれた水辺空間における豊かさは、現代における都市を昇華しこれからの都市空間の在り方を担うひとつの大きなテーマであるといえる。

2. 既往研究のレビュー

これまで、「広重の浮世絵風景画にみる景観分類に関する研究」、「広重の浮世絵風景画に描かれた河川景観の絵図に関する一考察」として、多くの成果が得られているが、江戸・東京における水辺空間を主題とした研究はなされていない。本研究はこれらの成果を踏ま



絵図-1 「名所江戸百景」(水道橋駿河台)

えて、これまでなされていなかった、江戸・東京の水辺空間に着目し、その空間構成要素について分析を行う。

3. 研究の目的

浮世絵は初期においては人物画が主流であったが、経済の発展と道路交通の発展が道中筋の風景に対する庶民の関心を高め、風景画が評価されるようになった。これらの絵図には江戸・東京の水辺を美しく描いたものが多く、人々の生き生きとした姿や水辺風景が丹念に表現されている。

そこで、本研究は歌川広重が描いた「名所江戸百景」における空間構成要素を抽出し、分析・考察することにより、江戸・東京における水辺空間の豊かさを再生するための有効的な建築・都市計画手法として構築することを目的としている。

表-1 研究対象絵図「名所江戸百景」

「名所江戸百景」No.・タイトル		
001. 日本橋雪晴	040. せき口上水端	078. 鉄炮洲築地門跡
002. 霞かせき	はせを庵橋やま	079. 芝神明増上寺
003. 山下町日比谷外さくら田	041. 市ヶ谷八幡	080. 金杉橋芝浦
004. 永代橋佃し	042. 玉川堤の花	081. 高輪うしまち
005. 両ごく回向院元柳橋	043. 日本橋江戸ばし	082. 月の峠
006. 馬喰町初音の馬場	044. 日本橋通一丁目略図	083. 品川すき
007. 大てんま町木綿店	045. 鐘の渡し小網町	084. 目黒鮎ヶが茶屋
008. する賀てふ	046. 昌平橋聖堂神田川	085. 紀の園坂赤坂溜池遠景
009. 筋違内八ツ小路	047. 王子不動之滝	086. 四谷内藤新宿
010. 神田明神曙之景	048-1. 赤坂桐畑	087. 井の頭の池弁天の社
011. 上野清水堂不忍ノ池	048-2. 赤坂桐畑雨中夕けい	088. 王子滝の川
012. 上野山した	049. 増上寺塔赤羽根	089. 上野山内月のまつ
013. 下谷広小路	050. 佃しま住吉の祭	090. 猿わが町よるの景
014. 日暮里寺院の林泉	051. 深川万年橋	091. 諸地秋葉の境内
015. 日暮里諏訪の台	052. 大はしあたけの夕立	092. 木母寺内川御前裁畑
016. 千駄木団子坂花屋敷	053. 兩國橋大川ばた	093. にい宿のわたし
017. 飛鳥山北の眺望	054. 浅草川首尾の松御殿河岸	094. 真間の
018. 王子稲荷の社	055. 駒型堂吾嬬橋	紅葉手吉那の社變はし
019. 王子音無川堰棧	056. 堀切の花菖蒲	095. 鴻の台とね川風景
020. 川口のわたり善光寺	057. 亀戸天神境内	096. 堀江ねこぎね
021. 芝罘岩山	058. 逆井のわたり	097. 小奈木川五本まつ
022. 広尾ふる川	059. 深川八まん山ひらき	098. 兩國火花
023. 目黒千代か池	060. 中川口	099. 浅草金龜山
024. 目黒新富士	061. 利根川ばらばらまつ	100. よし原日本堤
025. 目黒元不二	062. 八ツ見のはし	101. 浅草田圃西の町詰
026. 八景坂鐘懸松	063. 水道橋駿河台	102. 養輪金杉三河しま
027. 蒲田の梅園	064. 角筈熊野十二社	103. 千住の大はし
028. 品川御殿やま	俗稱十二そう	104. 小梅堤
029. 砂むら元八まん	065. 桜町一丁目山王祭ねり込	105. 御殿河岸
030. 亀戸屋敷	066. 外桜田弁慶塚跡町	106. 深川木場
031. 吾嬬の森運理の梓	067. みつまたわかれの淵	107. 深川州崎十万坪
032. 柳しま	068. 浅草川大川端宮戸川	108. 芝うらの風景
033. 四ツ木通用水引ふね	069. 綾瀬川鐘か淵	109. 南品川鮫洲海岸
034. 真乳山山谷堀夜景	070. 五百羅漢ささぬ堂	110. 千束の池裂姿懸松
035. 隅田川水神の森真崎	071. 深川三十三間堂	111. 目黒本鼓橋夕日の岡
036. 真崎辺より水神の森内川蘭屋の里を見る図	072. はねたのわたり弁天の社	112. 菱下敷小路
037. 隅田川橋場の渡かわら蒸	073. 市中繁栄七夕祭	113. 虎ノ門外あふひ坂
038. 廓中東雲	074. 大伝馬町こぶく店	114. ひくにはし雪中
039. 吾妻橋金龜山遠望	075. 神田紺屋町	115. 高田の馬場
	076. 京橋竹がし	116. 高田姿見の
	077. 鉄炮州稲荷橋湊神社	はし傍の橋砂利場
		117. 湯しま天神坂上眺望
		118. 王子袋束束の
		木大晦日の狐火

Study on Factors of Landscape Composition , Space of Water's Edge Drawing on Ukiyoe in Edo-Tokyo

Wakana TAO , Satoshi YAMADA , Hidekazu KIKUCHI , Hiroto OHUCHI

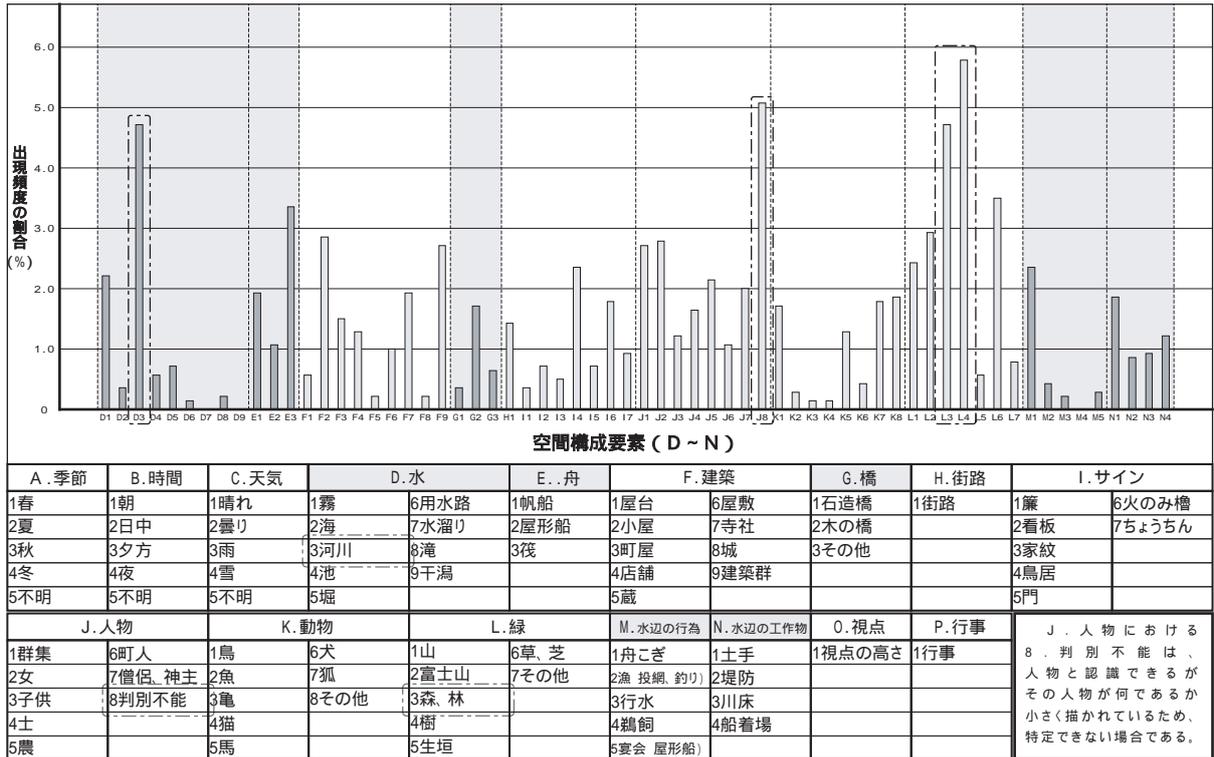


図-1 「名所江戸百景」における空間構成要素

4. 分析方法

4-1. 浮世絵に描かれた空間の構成要素

本研究では、歌川広重の「名所江戸百景」に描かれた119枚の絵図を対象とする(図絵-1表-1)。全ての絵図から浮世絵に描かれた江戸の名所における空間を構成する69の要素を挙げ、それぞれの絵図に描かれた空間がどのような要素で構成されているかを調査する。調査により得られた空間構成要素とそれらの出現頻度を以下にまとめる(図-1)。

調査より得られた結果のうち、特に上位の要素の考察を以下にまとめる。

- ・全体の約80%の絵図に水の要素が含まれており、このうち河川が最も出現頻度が高い。名所と呼ばれた空間の多くは、河川またはその周辺であったことがわかった。
- ・人物像を判別不能な群衆として描くことで、行為や賑わいを周辺環境と関連付けている。名所と呼ばれた空間の構成要素には、人々による行為や賑わいの様子があったことがわかる。
- ・樹木、森林には郊外の自然の風景を描いたものと、街中を描いた絵図に見られる庭木や並木道、観賞用の桜や紅葉など手入れのされたものの2種類が存在することがわかった。河川とともに、樹木、森林といった自然的要素は豊かな空間を創出した重要な要素で

あったといえる。

4-2. KJ法による類型化

浮世絵に描かれている空間は、個性と多様性に富んでいる。そのため構成要素をKJ法^{*1}を用いたグループ分類による分析手法が最適であると判断した。なお、類型化の際には、浮世絵に記入されている文字情報を排除し類型化を行った。

- 1) 無造作に広げられた浮世絵から類似している絵図同士を小グループにする。各グループの意味を読み取り表題を付ける。さらに、その表題を上記と同様に上位のグループにししていく。その行為を繰り返す。その結果、最終的に2類型に分類できた。
- 2) 上位のグループを下位のグループへと、編成時なんとなく意識されてきたグループ同士の関連性の意味を考えながら展開する。関係がわかりやすく、周辺のグループとなじむように配置し、関連性を矢印と文章を用いて図式化した(図-2)。「118.王子装束系の木大晦日の狐火」は、他との関連性を持たなかったため分析より除外した。

KJ法により得られた17類型のうち、「妖怪」と「桜た自然的要素は豊かな空間を創出した重要な要素での下で花見をしている様子」以外のすべての類型に

水辺空間を描いた浮世絵が存在する。しかし、水辺空間に直接関連しない表題をもつ類型では、水辺空間そのものが主題ではなく、人々の行為や祭事、行楽、サインなどを主題とし、名所と呼ばれた空間を構成する要素の一つとして描かれていたことが考えられる。

4 - 3 . 水辺空間の空間構成要素

KJ法により得られた17の類型のうち、水辺空間に関連する表題を持つ類型の浮世絵に着目し、空間構成要素の表より得られた、上位要素（河川・人物・樹木森林）と水辺空間における具体的な要素との比較により分析・考察し、以下に整理する。

観賞用として整備された水辺 (NO.23,57,59,91)

特徴的な構成要素：灯籠,石橋,長椅子,川床,屋台

入り組んだ水際や滝、群島などの自然の地形を利用し、対岸を眺めるための要素を配置している。

寺社のある水辺 (NO.11,18,49,65,66,72,87,94,110)

特徴的な構成要素：寺社,参道,庭木,祭事

寺社を河川によって他の建築群から分断している。人々にとって重要な建築物であるため、庭木などが手入れされている。寺社の祭事は河川沿いで行われ、これらは水辺空間特有の文化や景観を育んでいた要因の一つであると考えられる。

河川沿いに建ち並ぶ建築 (NO.43,48,89)

特徴的な構成要素：船,水辺の賑わい,水辺の自然

水辺を眺めるための窓や障子があり、水辺空間の様子を眺めることを目的として計画された建築物がある。

水上の賑わい (NO.36,43,68,72,81,)

特徴的な空間構成要素：舟運船,渡し船,屋形船

流通産業や交通手段、遊び場など、水上に滞在する機会や活動する機会が日常的に多く存在するという特徴がある。

5 . まとめ

以上「江戸名所百景」に描かれた、江戸・東京の名所と呼ばれた空間構成要素の分析・考察により得られた成果を以下に整理する。

浮世絵に描かれた、江戸・東京の名所と呼ばれる空間の構成要素をまとめ、上位の構成要素に着目することにより、河川をはじめとする水辺、賑わい

や行為により空間を彩る不特定多数の群衆、豊かな空間を生み出す樹木・森林といった豊かな空間の再生に不可欠な空間構成要素として抽出できた。

KJ法により、浮世絵に描かれた江戸・東京の名所を類型として得られたことにより主に、水辺を主題としている類型と、水辺を空間の一部またはアクセントとしてとらえている類型の2つの類型に分類することができた。

水辺を主題としてとらえている類型の分析より、

・観賞用として整備された水辺

・寺社のある水辺

・河川沿いに建ち並ぶ建築

・水上の賑わい

以上のような水辺空間の特徴とその要素を抽出し、考察することができた。

以上本研究では、浮世絵に描かれた江戸・東京の名所と呼ばれた空間の構成要素と特徴に着目し、分析・考察し、都心における浮世絵に描かれたような水辺空間の豊かさの再生や都市計画手法に関する有効な知見を得ることができた。

また今後の展開として、絵図の大きさに対する構成要素の占める割合や、複数の要素の組み合わせ、配置について調査を重ねることにより、都市や人々を豊かにし日々の生活に潤いを与える、水辺空間における建築・都市計画手法として構築する。

<注釈>

* 1)KJ法

収集し蓄積された情報の中から、当面する問題の解決に必要なものを取り出し、互いに関連のあるものをつなぎ合わせ、整理・統合する手法の一つであり、特に、質的にバラエティに富んだ情報内容の構造の把握に有効的な手法である。

<参考文献>

- 1) 萩島哲：「風景画と都市景観 - 水・緑・道・まちなみ - 」 理工図書 1996.2
- 2) 日本建築学会：「建築・都市計画のための調査・分析方法」 井上書院 1991.11
- 3) 後藤茂樹：「浮世絵大系16 - 名所江戸百系(1) - 」 集英社 1975.12
- 4) 後藤茂樹：「浮世絵大系17 - 名所江戸百系(2) - 」 集英社 1976.4
- 5) 坂井猛・出口敦・萩島哲・朴鍾ちよる・菅原辰幸：「広重の浮世絵風景画にみる景観分類に関する研究」日本建築学会計画系論文集、第461号、pp165 1994.7
- 6) 鷗心治・萩島哲・出口敦・坂井猛・趙世農：「広重の浮世絵風景画に描かれた河川景観の構図に関する一考察」日本建築学会計画系論文集、第482号、pp155 1996.4
- 7) 坂井猛、萩島哲、出口敦、鷗心治、日高圭一郎：「浮世絵風景画に描かれた宿場の景観構成に関する考察」日本建築学会計画系論文集、第509号、pp149 1998.7

<謝辞>

本研究はゼミナールBとして以下の学生の協力を得ました。
3年生、阿出川南さん、石田憲君、柏倉健司君、金子吉彦君、河本永樹君、佐藤祐介君、里見慎拓君、高橋知巳君、中村恭平君、西山真由美さん、八木一憲君、八島健介君